



学内広報



2002 . 10 . 9
東京大学広報委員会

小柴昌俊名誉教授が ノーベル物理学賞を受賞



小柴昌俊名誉教授

(2 ページに関連記事)

目次

特別記事	2	掲示板	11
小柴昌俊名誉教授がノーベル物理学賞を受賞		第27回東京大学伊豆・戸田マラソンレースの開催、総合研究博物館新規収蔵展示、第6回 スピン 電荷 光・結合系：物工国際シンポジウム、ジャン＝リュック・ステンメッツ氏（ナント大学教授）講演会、第36回小石川植物園市民セミナーのお知らせ、スポーツ・トレーニング（実習）開講のお知らせ、「教養学部報」第459（10月2日）号の発行、大学院数理科学研究科公開講座、データベース定期講習会のお知らせ	
一般ニュース	2	事務連絡（人事異動（教官、事務官））	15
バリアフリー支援準備室発足		訃報（ジャン＝クリストフ・ドゥヴァンク 外国人教師）	18
部局ニュース	2	淡青評論「研究者の市場」	20
平成15（2003）年度大学院工学系研究科入学試験結果、團勝磨先生、ジーン先生と位相差顕微鏡、スーパーカミオカンデ装置部分復旧完成の報告、平成14（2002）年度留学生センター日本語教育集中コース・特別コース（夏学期）（第34期生）の修了証授与式行われる			

≡ 特別記事 ≡

小柴昌俊名誉教授がノーベル物理学賞を受賞

本学の小柴昌俊名誉教授が、2002年のノーベル物理学賞を受賞されました。宇宙から飛来する素粒子ニュートリノを観測し、「ニュートリノ天文学」の新分野を開拓した業績が高く評価され、このたびの受賞となりました。

10月8日(火)午後8時半から理学部化学本館で記者発表が行われ、佐々木総長等関係者が見守るなか、喜びの会見を行いました。

なお、詳細続報は次号に掲載予定です。



記者会見に臨む小柴昌俊名誉教授(中央)



記者会見場に駆けつけた江崎玲於奈芝浦工業大学学長(左)と小柴昌俊名誉教授(右)

≡ 一般ニュース ≡

バリアフリー支援準備室発足

東京大学学生生活委員会のバリアフリーWG(委員長・児玉龍彦先端科学研究センター特任教授)で検討してきた、バリアフリー支援準備室が平成14年10月1日より発足することになった。

その目的は、東京大学の学生で、感覚器や身体に障害のある学生が教育を受けるに当たって、その障害のために不利益が生じないように支援することである。例えば、視覚障害には指文字通訳、聴覚障害にはEM補聴器あるいは手話通訳、要約筆記、車イスでの移動が必要な場合はスロープなどを用意することでコミュニケーションや移動を補償する必要がある。これまでは障害のある学生が入学し、進学するとそのたびに個々の部局あるいは学科で対応してきた。このたびのバリアフリー支援準備室の発足は全学の問題としてこの問題を常時取り扱い、支援することである。バリアフリー支援準備室は、駒場キャンパス 56号館105号室に置かれる。室長は加我君孝教授(医学部)、副室長は池田信雄教授(教養学部)と福島智助教授(先端科学研究センター)である。支援準備室の連絡先は、内線:55067、e-mailアドレス:aito@rcast.u.tokyo.ac.jpです。

広島大学では障害のある学生のために約1000人のボランティアが登録されているとのことである。東大でも同様の支援ボランティアを募集する予定である。

(学生部)

≡ 部局ニュース ≡

平成15(2003)年度大学院工学系研究科
入学試験結果

大学院工学系研究科では、平成15(2003)年度大学院入学試験を平成14年9月2日(月)から6日(金)の間実施し、9月20日(金)合格者を発表した。

志願者数・合格者数は、下表のとおり。

平成15(2003)年度大学院工学系研究科修士課程入学志願者数・合格者数

	受入予定人員	志願者数			合格者数		
		本学	他大学	計	本学	他大学	計
社会基盤工学専攻	58	49	79	128	42	22	64
建築学専攻	57	47	150	197	27	51	78
都市工学専攻	31	39	48	87	27	7	34
機械工学専攻	72	97	95	192	33	9	42
産業機械工学専攻					26	8	34

精密機械工学専攻	34	38	40	78	24	14	38
環境海洋工学専攻	30	32	46	78	27	3	30
航空宇宙工学専攻	52	59	61	120	41	12	53
電気工学専攻	69	93	88	181	9	18	27
電子工学専攻					41	18	59
物理工学専攻	50	42	57	99	27	26	53
システム量子工学専攻	39	41	76	117	28	16	44
地球システム工学専攻	24	25	11	36	24	3	27
マテリアル工学専攻	57	36	96	132	29	34	63
応用化学専攻	43	52	73	125	29	17	46
化学システム工学専攻	36	40	36	76	33	7	40
化学生命工学専攻	47	48	67	115	35	14	49
超伝導工学専攻	10	0	1	1	8	2	10
計	709	738	1,024	1,762	510	281	791

注) 超伝導工学専攻合格者数には、他専攻からの振替者を含む。

平成15(2003)年度大学院工学系研究科博士課程入学志願者数・合格者数

	受入予定人員	志願者数			合格者数		
		本学	他大学	計	本学	他大学	計
社会基盤工学専攻	30	18	7	25	18	5	23
建築学専攻	22	29	16	45	26	14	40
都市工学専攻	14	12	7	19	11	3	14
機械工学専攻	32	10	10	20	9	3	12
産業機械工学専攻					1	4	5
精密機械工学専攻	14	8	7	15	8	6	14
環境海洋工学専攻	15	8	3	11	7	3	10
航空宇宙工学専攻	25	12	2	14	12	2	14
電気工学専攻	33	20	7	27	7	2	9
電子工学専攻					10	1	11
物理工学専攻	24	11	0	11	10	0	10
システム量子工学専攻	19	18	5	23	16	0	16
地球システム工学専攻	13	1	0	1	1	0	1
マテリアル工学専攻	26	10	10	20	9	5	14
応用化学専攻	17	7	3	10	7	2	9
化学システム工学専攻	17	13	2	15	11	0	11
化学生命工学専攻	18	16	3	19	15	2	17
超伝導工学専攻	5	1	0	1	1	0	1
先端学際工学専攻	60	21	27	48	17	18	35
計	384	215	109	324	196	70	266

團勝磨先生、ジーン先生と位相差顕微鏡

團勝磨、ジーン夫妻は細胞生物学、発生生物学の分野では知らない人はいない程の素晴らしい研究をされてきた方々である。勝磨先生は本学理学部動植物学科を卒業、米国ペンシルバニア大学に学びPhDを取られ、日本に帰られた後は本学動物学科副手、講師を経て、東京都立大学開設とともに教授として移られ、学長も勤められた。学長という激務の中でも、また退職された後も、晩年まで研究を続けられた。ウニ卵をもちいた細胞分裂の研究が有名である。

ジーン先生はペンシルバニア州ウイルソンカレッジ卒業後、ペンシルバニア大学大学院に進まれた。同じ研究室に留学しておられた勝磨先生に出会い、結婚して1937年に来日された。第2次世界大戦中、またその後の困難な時期にも勝磨先生とともに本学の三崎臨海実験所で研究を続け、精子の先体反応を発見された。その後、お茶の水女子大学理学部で研究と教育に真摯に取り組まれ、学生達はもちろん、日本のこの分野の多くの研究者に大きな影響を与えられた。勝磨先生の生い立ち、留学体験、学問に対する姿勢などは「ウニと語る」(團勝磨著、学会出版センター)として出版されている。ジーン先生の生い立ち、研究、第2次世界大戦中の「敵国」日本での生活などは「渚のうた」(加藤恭子著、講談社)として出版されている。いずれも大変面白い読み物なので若い方々には是非、一読していただきたい。

さて、前置きが長くなったが、本稿は團御夫妻の顕微鏡についての紹介記事である。その顕微鏡とは、團ジーン先生が1948年、第2次大戦後はじめて故国アメリカ合衆国に行かれた際に、アメリカの先輩・友人の援助によって米国哲学協会からの研究助成金を得て購入された位相差顕微鏡で、アメリカで作られた市販品第1号機(Bausch&Lomb社製)である。したがって当然、日本では唯一の位相差顕微鏡であった。位相差顕微鏡は透明でコントラストの低い、生きている細胞の観察に適した顕微鏡である。ジーン先生は1950-1952年、この顕微鏡を用いて、海産動物の受精における精子の先体反応を発見したのである。さらに、精子の卵内への侵入とその構造変化、表層粒の崩壊による受精卵の表面構造の変化など、従来の顕微鏡では観察が困難であった受精初期におけるさまざまな過程が明らかにされた。先体反応については、その発見後、ジーン先生自身や、1953年に三崎に来て先体反応の研究を始めたColwin夫妻をはじめ多くの研究者により、哺乳類を含むほとんどすべての動物の精子で起こること、さらにそれが受精において必須のプロセスであることが明らかにされた。

この位相差顕微鏡はオリンパス光学や千代田光学などの日本の顕微鏡メーカーの位相差顕微鏡の開発にも役立った。また、細胞の観察にはそれまでおもに固定切片が用いられてきたが、位相差顕微鏡の開発により生きている細胞の直接観察が行われるようになり、細胞生物学が飛躍的に発展した。

ジーン先生が亡くなられてから勝磨先生はこの位相差顕微鏡保管を浜野顕微鏡店に依頼され、厳重に管理されてきた。現在でもその性能は新品同様で、今日の位相差顕微鏡にまさるとも劣らない。しかし私達はこの顕微鏡が厳重に保管されるよりもむしろ多くの方々の目にふれることに価値があると考え、有志の方々の協力を得て、團御夫妻が長く研究を続けられた三崎の臨海実験所に展示することにした(写真)。三崎において際にはぜひ展示を御覧になっていただきたい。また臨海実習などで学生諸君を引率される教官の方々は、学生に説明していただくと幸いである。



位相差顕微鏡

写真説明：顕微鏡(右)、照明装置(中)に加え、勝磨先生が使用されたライツのマイクロマニピュレーター(左)を展示してある。パネルには和文説明(平本幸男による)、英文説明(アメリカ・ウッズホール臨海実験所、井上信也博士による)、ジーン先生の先体反応発見の論文の最初のページと写真のページ、および団御夫妻の写真2点を掲示してある。

大学院総合文化研究科・生命環境科学系教授 馬淵一誠
東京工業大学名誉教授(元三崎臨海実験所助教授)

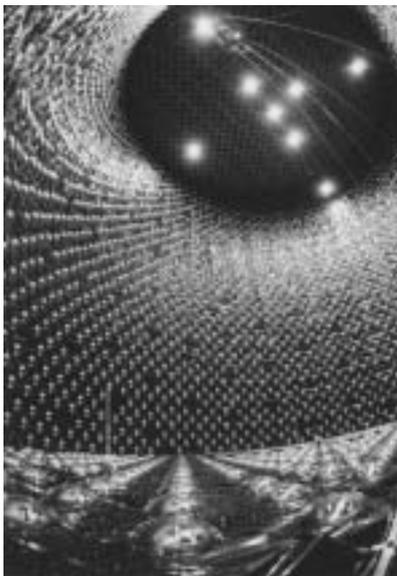
平本幸男

スーパーカミオカンデ装置部分復旧完成の報告

昨年11月12日に、宇宙線研究所神岡素粒子宇宙研究施設の大型水チェレンコフ装置の光センサー大量破損事故が起きました。以来、事故原因の究明、事故防止策の検討、事故残骸撤去に努めて参りましたが、このほど残存する光センサー約5200本を使った装置の部分復旧が完成しましたので、ここに経緯を含めて簡単に報告します。

事故原因の究明と事故防止策の検討に関しては、東京大学に設置された事故原因究明等委員会報告として、ホームページwww.sk.icrr.u-tokyo.ac.jp/cause-committee/index.html上に公開していますので、詳細はそちらを見ていただくこととして、概略は次のとおりです。

事故は、少数の故障光センサーを取り替える作業がほぼ完成して、5万トンの水が4分の3ほど注入されたときに起きました。事故後の調査、特に、事故直後30ミリ秒の信号データの解析、流体シミュレーション計算、小規模の再現実験の結果により、センサー大量破損は、衝撃波連鎖反応によることが明らかになりました。詳しく言うと、水深30メートルの水タンク底面におかれた光電子増倍管の一つが何らかの理由で破壊・爆縮を起こした後、隣接する増倍管を次々と連鎖的に破壊したものと推測されます。さらに、将来の事故再発を防ぐ手段としては、小さな穴のついたアクリルカバーを各々の光電子増倍管にとりつけることが、衝撃発生を抑制して連鎖反応を起こさないことを確認しました。これを受けて、カバーの仕様を決定し、残るセンサーにカバーをつけタンクの上下面、側面にセンサーが一様に分布するように、センサーの再配置を行いました。センサー総数が約半分に減ったことによりニュートリノの検出感度は特に低いエネルギーのニュートリノで劣化しますが、今後、人工ニュートリノを使うK2K実験などを支障なく遂行でき



部分復旧完成後のタンク底面からみた光センサー群の全貌

ます。

9月一杯で光センサーの再配置を終了し、10月3日から注水を開始いたしました。

装置の部分復旧に関して、東京大学の関係各位、文部科学省の担当各位、全国の研究者の熱い支援とともに、国民の皆様からの支援も頂きました。研究所を代表して深く感謝します。ニュートリノ研究において今後も世界トップの研究成果をあげるためには、装置の全面復旧が必要であります。今後とも全面復旧に向けたご支援のほどをよろしく願います。

(宇宙線研究所)

平成14(2002)年度留学生センター日本語教育集中コース・特別コース(夏学期)(第34期生)の修了証授与式行われる

留学生センターでは、本年4月から本年度夏学期を開講していたが、このほど、全日程を終了し、9月27日(金)15時30分から、医学部総合中央館333号室において、51名の修了者に対する修了証授与式を行った。

式には、来賓の廣渡副学長のほか、関係教官らが列席、飯塚センター長挨拶に続いて修了者ひとりひとりに飯塚センター長から修了証が手渡されたあと、廣渡副学長から祝辞が述べられた。廣渡副学長は、専門の研究のためだけならばあるいは英語で事足りるという面はあるかもしれないがと前置きして、「みなさんがこうして日本語を集中的に勉強し、日本語の奥行きに接する機会を持ったことは大いに意義あることであり、そのことによって日本に関する理解を深め、より多くの日本人の友人を作ることはみなさんにとって必ず財産になることと確信している」と述べて、新たな外国語を学習することに伴う苦勞をねぎらうとともに、このあと本格的に専門の研究にいそしんだり、大学院進学を目指したりする修了者を励ました。

ついで、留学生センター菊地教授の講評のあと、各クラスの代表者が日本語でスピーチを行い、来日当初の日本での生活や日本語学習への不安な気持ち、それを克服した喜び、いろいろな国からの友人が出来たこと、クラスメートとの楽しい思い出やこれまでの苦勞などが語られ、和やかな雰囲気の中に式は終了した。引き続き山上会館のところを移して、修了者を囲んでの懇談会が開かれた。これにも廣渡副学長が参加され、修了者がいま話題の日本語の歌を歌ったり、以前の修了者が日本語のスピーチをして修了者たちを励ましたりして、大いに盛り上がり、時の経過も忘れるほどではあったが、やがて刻限となり、一同名残りを惜しみつつ、散会した。

なお、今期の修了者51名の所属は以下の12研究科、出身は以下の31の国(または地域)である。

大学院法学政治学研究科	7名
大学院医学系研究科	5名
大学院工学系研究科	14名

大学院人文社会系研究科	5名
大学院理学系研究科	2名
大学院農学生命科学研究科	4名
大学院総合文化研究科	2名
大学院教育学研究科	5名
大学院薬学系研究科	1名
大学院数理科学研究科	1名
大学院新領域創成科学研究科	2名
大学院情報理工学系研究科	3名
韓国	5名
台湾	2名
中国	1名
モンゴル	2名
フィリピン	3名
インドネシア	3名
シンガポール	1名
タイ	3名
ネパール	1名
イラン	1名
レバノン	1名
トルコ	1名
エジプト	3名
マダガスカル	1名
スペイン	1名
イギリス	1名
デンマーク	1名
ドイツ	1名
ルーマニア	1名
マケドニア	1名
アルバニア	1名
ロシア	2名
カナダ	1名
アメリカ合衆国	2名
メキシコ	1名
ドミニカ	1名
ペルー	2名
コロンビア	2名
アルゼンチン	2名
チリ	2名
オーストラリア	1名

以上

クラス1代表、ケレベスト・ジニー

(アルバニア、大学院医学系研究科)

先生方、皆さんこんにちは。クラス1の代表、アルバニアのジニー・ケレベストと申します。

私たちは4月に日本に来ました。皆さんは今まで日本語の勉強をよく頑張りました。お疲れ様でした。日本語の勉強だけではなく、それぞれの国の文化や習慣などを話すことができましたし、友達になりましたし、外国での生活もほとんど寂しい感じがなかったです。

私たちにとって、日本語の勉強は初めは難しかったです。でも先生のお蔭で、私たちは平仮名、カタカナ、漢字、会話、文法などの基礎を勉強しました。クラスではいろいろな面白い練習をしました。最初の会話の練習は郵便局でしました。それから、実際に日本人をインタビューして練習しました。また、ビデオを撮って練習しました。日本の文化のクラスで日本の文化を勉強しました。それも面白かったです。

私たちのクラス1は12人です。タイの親切なラングサリトさん、バングラディッシュのお話が大好きなファイサルさん、チリのコンピューターのスペシャリストのファン先生、フィリピンの映画が大好きなエルスベスさん、インドネシアのしずかなイダさん、マケドニアの私の専門の同僚のサンドラさん、ペルーの優しいリネットさん、チリの明るいカロリナさん、コロンビアのいつもいい質問をするペドロさん、アルゼンチンの日本語の練習が大好きなフロレンシアさん、ロシアの真面目なニキタさん、それから私です。

私たちは日本語の勉強が楽しかったです。先生方はとても親切でゆっくり何回も同じ事を教えました。ですから、私たちは日本語が話せるようになりました。

私たちクラス1の学生は教えてくださった先生に、心から感謝します。また、留学生センターの皆さんのいろいろお世話になりました、どうもありがとうございました。学生の皆さん勉強を頑張ってください!! ありがとうございました。



クラス1代表 ジニー

クラス1 S代表、ロサリンダ・バエズ

(ドミニカ、大学院工学系研究科)

みなさん、こんにちは。わたしは、ドミニカからきたロサリンダ・バエズです。1Sクラスを代表してお話できて、こうえいです。

みんながよく勉強して、自分の国とちがう国でいきのこったから、わたしはみんなに「おめでとう」と言いたいです。

みなさん、おめでとう!!!

日本へ来るのは、大きいチャレンジになりました。わたしたちは日本語があまりむずかしくないと思いました

が、じつはたいへんで、ときどきわたしはぜんぜんできないと思ったのです。はじめは、わたしはぜんぜんわからなかったから、かなしかったです。日本人はいつぱんにシャイで、日本人と話すのはむずかしいです。

クラスがはじまるまえに、少ししんぱいでした。ほかの学生もわたしと同じだったそうです。でも、これはもうおわりました。先生方は6ヶ月間、おもしろく、よく教えてくださいました。

でも、6ヶ月間はあまり十分ではないから、みんなはもっと日本語を勉強しなければなりません。がんばってくださいね。

しかし、みんなは6ヶ月間時間をむだにしませんでした。今わたしたちの耳はよくなって、話すとき、はずかしくなくなりました。

みなさん、これからもっといいことがあるといいですね。よくがんばってください！

みんなのやさしさをありがとう。



クラス1 S代表 パエズ

クラス2代表、ナラヤン・ダレル

(ネパール、大学院医学系研究科)

みなさん、こんにちは。

わたくしはナラヤンと申します。ネパールからことしの4月にまいりました。専門は医学で消化器内科です。この留学生センターのインテンシブコース・クラス2で日本語を勉強しました。今日みなさんの前でこのようなスピーチができるのはほんとうにうれしいです。どうぞよろしくおねがいいたします。

わたしたちのクラス2には、学生は12人いました。タイのタナゴーンさんとジャンヤさん、フィリピンのマリテスさん、モリナさんとジョシュアさん、ペルーのボルさん、イランのホセインさん、レバノンのフェイズさん、モンゴルのエンヘさん、コロンビアのゴンザロさん、カナダのヘンリーさんとわたしでした。でも、あとで、ジョシュアさんはクラスをかわったので11人になりました。

はじめは、だれも知っている人がいませんでしたが、いっしょに勉強したり、遊んだりして、だんだんいい友達になりました。

かんじをおぼえるのはちょっと大変でしたが、日本語の勉強はおもしろかったです。でも、クラスで勉強したのは日本語だけではありませんでした。日本の文化、習慣や生活のこともたくさん習いました。それから友達いろいろな国のことも少しわかりました。

そのほか、楽しかったこともいろいろありました。水曜日に日本の映画を見たこと、郵便局へ行って切手やはがきを買ったり、手紙を出したりしたこと、日本人にインタビューをしたこと、ビデオスピーチをしたことなどです。

クラスの中ではよくジョークも言っていました。子ども(くだもの)がすきなホセインさん、ケーキが大好きなマリテスさん、社長になりたいゴンザロさん、などについてよく話しました。

クラスはいつも朝9時10分から始まりました。朝早いので、時々みんなはおくれましたが、ボルさんはいつもまじめな学生で、けっしておくれませんでした。時々クラスのあとでみんなでいっしょに食べたり、お台場で遊んだりもしましたが、私は参加できなくて、ちょっと残念でした。

6か月前、日本へ来たばかりのとき、とてもたいへんでした。日本語がぜんぜんわからなかったので、電車にのるときも、買い物するときも、いつも、よくこまりました。それで、日本の生活や勉強はとてもたいへんだと思って、心配していました。でも、勉強がはじまってからは、ゆっくりゆっくり日本の生活がかんたんになりました。このクラスでならったことがすごく役に立って、前は日本語がぜんぜんわからなかったわたしたちが、今はすこしできるようになりました。

クラスのみなさん、このじかんのことを大切に、いつまでもわすれないようにしましょう。そして、これからも日本語の勉強をがんばりましょう。

さいごに、すべての先生がた、わたしたちに親切に、わかりやすく教えてくださいまして、ほんとうにありがとうございました。それから、事務のかたがたにもお世話になりました。これからもどうぞよろしくおねがいいたします。

以上です。ありがとうございました。



クラス2代表 ナラヤン

クラス3代表、アルトゥロ・マヌエル・ナカソネ
 (ペルー、大学院情報理工学系研究科)
 皆さん、こんにちは

私はペルーから来た仲宗根アルトゥロと申します。どうぞよろしくお願ひします。皆さんの前で私の日本語の経験について、そして、クラス3の同級生を代表してクラス3の日本語の経験についても話すことができることを光栄に思います。いよいよこの日本語のクラス3が終わりますが、いろいろなことを経験したので、そんなことを思い出すたびに、「終わらないとよかったけどねえ...」という気持ちで少し寂しく感じられます。学生の皆さんはきっといろいろな計画を立てて、いろいろな勉強しなければならないことを持っていますが、時間が経っても、この留学生センターで先生方に教えていただいた日本語と日本についてのことを大切に忘れないようにして懐かしく思い出すでしょう。

日本に来る前に親戚から日本についてさまざまなことを話してもらいましたが、本当の日本のことを知るためにはここに来なければならぬと思います。私は日系人として日本についての習慣や日本の料理などをだいたい知っていますが、それにしても、日本に来た後でびっくりするようなことがよくあります。例えば驚いたことの一つは季節が変わるにしたがって天気がまったく変わることです。私が住んでいた町では季節が変わっても天気がそんなに変わらないので、傘がいらないうけけれど、初めて日本の「梅雨」を経験した時に、強い雨でびしょぬれになって、仕方がなくてそのまま家に帰らなくてははいけませんでした。おもしろくてわくわくする経験でしたが、そのせいで、日本での初めての風邪も経験しそうになりました。

一方、がっかりしたことの一つは私の日本語能力不足のせいで、日本人と互いに話し合う機会があまりなかったことです。修士課程の入学試験のために私が日本に来た四月からクラス3の多くの人と同じようにずっと専門についての勉強をしていて、日本語の授業以外に日本語を練習する時間がなかったのです。幸いなことに、留学生センターの優しい先生方が全力を尽くして日本語ばかりでなく、日本の文化についても教えてくださいましたから、日本人の考え方がだんだんわかって、日本語が上手になってきたのが感じられます。これは何かが上手になりたかったら、全力でがんばらなくてははいけないということをよく示しています。

クラス3の学生たちはいろいろな国から来て、いろいろな文化と言語が集まって、クラス3のディスカッションはとてもおもしろくなりました。私たちはときどき日本語が足りなくて日本語で話す自信がなかったので、英語をつかっているいろいろなテーマについての話をしたものです。これはクラス3の先生方に謝らなければなりません(申し訳ありません)。でも、おもしろいことに、このクラスの学生たちが言語に応じて二人ずつのグループに分かれたら、その学生たち同士の話聞いていた先生をびっくりさせることができました。例えば、イスカン

ダルさんとトピックさんは二人ともインドネシアから来たので、日本語の授業だったにもかかわらずひそかに話し合った時にインドネシア語を使っていたので、他の人はぜんぜんわかりませんでした。同様に、スペイン語、中国語、フランス語といったいろいろな言語を聞かせてもらいましたから、日本語だけではなく、他の言語も習う機会がたくさんありました。

グループとして私たちは日本語の授業以外で日本語で話す機会がそんなにありませんでしたが、みんながんばってよく日本語を勉強するようにしていました。例えば、フロリンさんは社会情報について研究したいと言っていましたから、早く日本語が上手になりたいと思っています。きっと上手になると思います。でも、どうやって日本語が上手になれるかというのが一番大切な問題だと思います。私にとって一番理解しなければならないことは日本語を勉強するとともに日本の文化もよくわかるべきだということです。日本の文化がわかれば、すぐに日本語が話せるようになります。できれば、ボランティアとして何かの仕事をするか、日本人と話すかすればいいと思います。もちろん、彼女が彼氏がいれば素晴らしいんですが、人によってはあまりついていない人もいます。

学生だけではなく、先生についても話したいと思いません。授業はとても面白くて、授業で習った日本語と日本についてのことを大切にしたいと思っています。でも、困っていることの一つは先生がクラス3の学生たちについてどう思うかということです。まじめですか?それとも、あまりたのしくないですか?このことを本当に先生方に聞きたいと思っています。私にとってクラス3は先生方に対してまじめなクラスのようにだと思われました。でも、みんなは先生方が熱心に日本語を教えてくださいましたので、一生懸命勉強するようにして、別にまじめなクラスというわけではありません。先生方、日本語を教えてください、本当にありがとうございました。特に今はここにいらっしやらない先生に感謝を差し上げたいと思います。最後までいらっしやいませんでしたが、あの先生のおかげでいろいろな日本語を習うことができました。市川先生、ありがとうございました。



クラス3代表 ナカソネ

このクラスのおかげで、留学生の友達を作るとともに日本人との関係を深めることができました。留学生でも日本人でも友達を作るのはときどき大変だと思いますけれど、上手に言語を使ったら、成功する可能性が高まります。ですから、これからも日本語を使いましょう！

ありがとうございました。

クラス4代表、タチアナ・レオドロブナ・リンホエワ
(ロシア、大学院人文社会系研究科)

皆さん、こんにちは。

私はロシアから参りました、タチアナと申します。今日はクラス4の代表としてこのコースについての自分の意見と感想をお話したいと思います。

クラス4は今学期、先生が4人、学生は最初10人でしたが専門の研究のために、9人になりました。

この6ヶ月の間には面白いことがたくさんあり、ほんとにすばらしい思い出になりました。クラス4の学生はいろいろな分野から集まった、さまざまな特徴を持っている人たちでした。その学生たちはデンマーク、中国、アメリカ、オーストラリア、スペイン、スイス、そして二人のロシアの学生です。この同級生について少しだけお話したいと思います。

スペインのSalvadorさんはいつも熱心に勉強したので日本語が非常に上達したと思います。オーストラリアのNeilさんもいっしょうけんめい勉強していて授業ではたくさん質問をしていました。スイスのMiguelさんはいつも面白い話題を提供してくれたので授業がとても面白くなりました。デンマークのRikkiさんとこのコースで知り合ってとても仲の良い友達になりました。アメリカのMaryさんは授業でアメリカの生活習慣、教育制度などについて、とても面白い話をしてくれました。

そしてこの6ヶ月の間に様々な文化に接する機会を持つことができました。

この授業では毎日新聞記事を読んで現代の日本の社会問題を知ることができました。そのおかげで今私たちは日本語の新聞が読めるようになりました。その記事の中で特に印象に残ったのは「結婚メリットない」という記事です。この記事は結婚にメリットがあるかどうかというテーマで、日本における男女関係のあり方の変化を論じたものでした。学生たちみんなは自分の国の結婚にまつわる話を準備して発表しました。男性と女性が2つのグループに分かれ、白熱した議論がなされました。議論の対象は結婚のあり方にとどまらず、男女関係のあり方にも及び、とても盛り上がりました。議論のおかげで結婚のあり方には、国によって非常に違うということが、分かりました。

また、クラス4の四人の先生方にはいろいろ教えていただきました。中でも、特に文法の説明はとても分かりやすく、こまかい点までよく理解することができました。先生方は私たちのどんなにもつまらない質問にもやさしく答えてくださいました。感謝いたします。

最後に、お世話になった事務のみなさんにも心からお礼申し上げます。皆様ありがとうございました。



クラス4代表 タチアナ

特別コース代表、チョン ユンジョン
(韓国、大学教育学研究科)

皆さん、こんにちは。私は韓国から参りました特別コースのチョン ユンジョンと申します。大学院教育学研究科の研究生として、日本と韓国の教育カリキュラムについて研究しております。韓国の大学では日本語教育を専攻しておりましたが、今日は留学生センターの日本語コースで新たに学んだことや楽しかった思い出について述べさせていただきたいと思います。

特別コースの授業は、火曜日と金曜日、2つのコースが設けられています。火曜日のクラスは、市川先生と菊地先生がプレゼンテーションや新聞記事の読解などの授業をなさり、金曜日は大島先生と増田先生が日本語を聞いたり書いたりすることを指導されました。このうち、私は金曜日のコースに在籍し、モンゴルのポロルさん、台湾のチェンさん、韓国の安さん、韓さんといったクラスメートとともに家族的な雰囲気の中で学びあいました。

では、金曜日の内容について少しお話したいと思います。大島先生の担当された前半期には、主に現代の社会で話題になっている時事問題に関するビデオを見ながら難しい語句を勉強したり、文章の作り方を練習したり、お互いの国の事情を話し合ったりしました。特に記憶に残るものとしては、「長持ち商品静かなブーム」や「人間講座 超・美術鑑賞術」などです。

「長持ち商品静かなブーム」の番組を見ては、物があふれる経済大国日本の消費者たちの中で環境や物の大切さが新たに認識されはじめてるのが分かりました。日本に留学してきてスーパーやコンビニを利用するたびに使い捨ての多さに圧倒され、何とかリサイクルできないのかなと思っていたのですが、少しでも丈夫なものを工夫して長持ちさせようとする職人気質も静かなブームを巻き起こしているというから、胸をなでおろすことができました。

そして、「人間講座 超・美術鑑賞術」は、ちょっと

風変わりな芸術家森村泰昌さんの話です。自画像が専門ですが、有名な海外の画家ゴッホやレンブラントなどの自画像になぞらえて作ったセルフポートレートはユニークなもので、それに初めて接する私たちは不気味ささえ感じましたが、細かいところまで繊細に再現し自らを再創造することには驚きを禁じ得ませんでした。一時大流行して今なおはやっているプリクラ・ビデオカメラとセルフポートレートとの関係から価値観の変化の激しい不安定な世の中で抛り所を求める人々の志を読むことができました。

このように斬新な分野の番組を通じて、高度な日本語の理解だけではなく、日本社会についての新しい知識まで学ぶことができ、大変有益な時間を過ごすことができました。

また、増田先生の担当された後半期には、これから本格的な研究作業に入る私達に欠かせない「書く」勉強をしました。研究室で円滑なコミュニケーションを行うために、電話の伝言メモや電子メールを書く練習をしたり、また、グラフやデータを分析し、それについて結果をまとめる練習、講義を聴いてレポートを書く練習、文献を読んで要約を書く練習などをし、最終日には実際の研究テーマを決めて論文の一部を書いてみたりする作業も行いました。

また、そのほか授業の中で、専門の講義で板書が読解できるようにと、崩し字や略字を習ったことも印象深かったです。これは、普段、パソコンや印刷物に出るきれいな日本語の文字ばかりに慣れていて、日本人学生向けの板書が読みにくくて苦労していた私達にとっては、かゆい所に手が届くといったようなご指導でした。

このように、「理解可能な日本語の文」ではなく「自然な日本語の文」を目指す特別コース日本語授業に相応しい精選された内容や温かいご指導のおかげで私達は東京大学での留学生活の第一歩を踏切ることができたと思えます。

留学生センターで学んだ日本語や日本文化についての知識はこれから日本で勉強し、生活していく留学生の私達にとって様々なところで大いに役立つでしょう。多大な愛情や関心をそそいでくださった留学生センターの先生方や関係者の皆様、どうもありがとうございました。

(留学生センター)



特別コース代表 チョン



副学長と一緒に修了記念撮影

≡ 掲示板 ≡

第27回東京大学伊豆・戸田マラソンレースの開催

今年で27回を迎える伊豆・戸田マラソンレースをご存知でしょうか？

東京大学戸田寮（スポーティア戸田）をスタート及びゴールとする42.195kmのフルマラソンレースです。

富士山を望む秋の西伊豆の海岸線や緑豊かな自然いっぱいコースを走ってみませんか。

今大会から一般参加ランナーも募集し、ロシア国からの招待選手を含めた国際交流レースとなります。

皆様のご参加をお待ちしております。

1. 日 時 10月26日(土)13:40 沼津港に集合
18:30 開会式
戸田寮泊
10月27日(日)7:00 スタート
13:00 レース終了
13:45 閉会式
16:00 沼津港にて解散
2. 参加費 6,800円(宿泊費及び沼津～戸田間の往復の乗船料を含みます。)
3. 募集人数 100名(3～5人で1組のチーム参加もできます。)
4. 賞品等 完走者(6時間以内でゴールした者)には完走賞、優秀な成績を修めた選手及びチームには表彰状並びに賞品を贈呈します。
5. 健康診断 指定の時刻を厳守のうえ、必ず受診してください。場所はいずれも保健センター本郷支所です。なお、定期健康診断を受けていない学生は受診できませんので、他の診療機関で下記項目について健康診断を受けてください。
○心電図検査
10月7日(月)13:00
8日(火)10:00又は13:00
○血圧測定、検尿、医師問診
10月18日(金)9:30(女性)
9:45(男性)
6. 受付 9月27日(金)より
○本郷：御殿下記念館モール階運動会受付窓口
9:30～12:00
13:00～16:00
○駒場：学生課2番窓口
9:00～12:30
1:30～16:30
7. その他 <問い合わせ先>
学生部学生課体育第一掛(内線:22509～22511)

総合研究博物館新規収蔵展示

「仏像へのまなざし 蓮實重康博士旧蔵美術史研究資料」展

総合研究博物館は平成13年3月に、在任中の蓮實重彦前総長より、ご尊父の元京都大学文学部教授蓮實重康博士の美術史研究資料の寄贈を受けました。内容の詳細は東京大学総合研究博物館ニュース『ウロボロス』(第6巻第1号)とホームページ上にあります。

今回、写真資料の一部を、西野嘉章教授の博物館工学ゼミの一環として、学生が主体的に企画・実行した展覧会を開催しました。

通例の展示マニュアルに縛られることなく、貴重で美しい写真群をいかに効果的にみせるか、工夫が凝らされています。

オープニングには蓮實前総長もご来場下さいました。

展示作業と並行してオリジナル写真資料のデジタル化も行いました。当館データベースに加え、多くの方々の利用に便宜を図る予定です。このように博物館では寄贈いただいた学術標本を登録保管するだけでなく、積極的な活用を常に考えております。

会場：総合研究博物館

主催：総合研究博物館

会期：平成14年9月21日(土)～11月4日(月)

月曜日休館(月曜日が休日の場合は翌火曜日休館)



(総合研究博物館)

第6回 スピン 電荷 光・結合系：物工国際シンポジウム

主催 大学院工学系研究科
SCPプロジェクト

日時：2002年11月18日(月) 10:00~17:50
11月19日(火) 10:00~17:10
11月20日(水) 10:00~14:50

会場：弥生講堂
(〒113-8657 文京区弥生1-1-1)

内容：スピンと電荷と格子の自由度が結合した強相関電子系における協力的相変化の光励起、磁場、電場などによる制御を主なテーマとするシンポジウム。

講演者：A. Cavalleri, J.C.S. Davis,
M. Fiebig, J. Orenstein, Z. X. Shen,
Z. Tesanovic, F. C. Zhang, 遠藤康夫、
福山秀敏、今田正俊、前川禎通、
村上洋一、大野英男、押川正毅、
樽茶清悟、斗内政吉、上田正仁、
宇治進也、本プロジェクトから数名が
講演をおこないます。

定員：250名

参加費：無料。バンケット(11月19日(火)17:30~20:00)
参加の場合は 1,000円

申込締切：定員に到達次第締め切ります。

連絡先：113-8656 文京区本郷7-3-1
大学院工学系研究科物理工学専攻 COE事務局
tel : 03 5841 6867
fax : 03 5841 6834
e mail:sophia@ap.t.u.tokyo.ac.jp
http://www.gono.t.u.tokyo.ac.jp/coehp_entrance.html
(大学院工学系研究科・工学部)

ジャン＝リュック・ステンメッツ氏(ナント大学教授)講演会

題目 『パリの憂鬱』とボードレールの反リリズム

日時 2002年10月11日(金)15:00

場所 文学部(本郷キャンパス)法文1号館314番教室

使用言語はフランス語(通訳なし) 入場無料

照会先 文学部仏文科 03 5841 3842

Monsieur Jean Luc Steinmetz
Professeur a l'universite de Nantes,
donnera une conference intitulee:

Le Spleen de Paris et l'antilyrisme de Baudelaire

le vendredi 11 octobre 2002, a l'Universite de
Tokyo (Hongo), Faculte des lettres,
Batiment 1, Salle 314, a 15 heures.

La conference sera donnee en francais, sans traduction.

Entree libre

Renseignements : Departement de
litterature francaise : 03 5841 3842

第36回小石川植物園市民セミナーのお知らせ

第36回小石川植物園後援会主催の小石川植物園市民セミナーを小石川本園で開催します。今回は「細胞内を動き回る葉緑体を追って」というタイトルで和田正三東京都立大学教授にご講演いただきます。和田正三教授は植物の発生学がご専門で、近年は葉緑体の光定位運動について研究されています。葉緑体は光合成を効率よく行うために、光の弱い時には細胞の表面に集まり、光が強すぎると光による傷害を避けるために細胞の脇側に移動します。講演では実際に葉緑体がどのように細胞内で動いているかをmovie(動画)で見せていただきます。また突然変異体を使った解析から、光の強弱を察知する受容体はフォトトロピンであること、この光受容体は気孔の開口にも関与していることなどの解明に至った、一連の研究についての経緯とその後の展開などについても、面白いお話がお伺いできると思います。皆様お誘い合わせのうえ奮ってご参加ください。

講師：和田正三教授(東京都立大学大学院理学研究科生物科学専攻形態形成学研究室)

日時：平成14年11月9日(土)13:00~15:00

場所：小石川植物園3階会議室

(文京区白山3-7-1 Tel 03 3814 0294)

参加ご希望の方は、10月31日(木)までに往復ハガキにて世話人の下園までご連絡ください。なお、会場の都合上、先着35名で締め切りとさせていただきますのでご了承ください。

〒112 0001 東京都文京区白山3 7 1

東京大学大学院理学系研究科附属植物園内小石川植物園後援会

世話人：下園文雄 Tel 03 3814 0294

(大学院理学系研究科附属植物園)

スポーツ・トレーニング（実習）開講のお知らせ

教養学部では、専門課程の学生を対象としたスポーツ・トレーニング（実習）を下記の通り開講します。授業内容は前期課程の身体運動実習に準じますが、水泳やマシントレーニングなど、独自の種目も開設されます（学期による）。学部、学科を問わず専門課程および大学院の学生であればどなたでも他学部聴講として履修できます。ただし、卒業に必要な単位の一部として認定している学部は現在のところ、法学部（2単位まで）、経済学部（2単位まで）、教養学部（超域文化科学科のみ1単位）、教育学部（2単位まで）、文学部（1単位）です。その他の学部・研究科では随意科目となります。

科目名：スポーツ・トレーニング

開講学部：教養学部後期課程

単 位：1週1回90分1学期の授業で1単位を与える。

開講曜限および場所：

木曜3限（13：15～14：45）および4限（15：15～16：45）に本郷御殿下記念館および御殿下グラウンドで行う。
金曜5限（16：20～17：50）に駒場テニスコート（テニスのみ）で行う。

科目番号：908（木曜3限）909（木曜4限）910（金曜5限）

本郷キャンパスでの開講種目と定員：

3限（13：15～14：45）

ソフトボール	40名
バレーボール	40名
卓 球	20名

4限（15：15～16：45）

トレーニング*	40名
バスケットボール	40名
バドミントン	20名

*マシンの使用を中心とした筋力トレーニング。受講によって御殿下記念館トレーニングルーム使用資格が与えられます。

駒場キャンパスでの開講種目と定員：

金曜5限（16：20～17：50）

テニス	20名
-----	-----

ガイダンスおよび受講登録：本郷キャンパスでの開講種目については10月17日（木）上記のそれぞれの授業時間に法学部31番教室で行います。テニス（駒場）については10月18日（金）5限に教養学部生命環境科学系身体運動科学研究棟会議室で行います。なお、同一学期に2コマ以上履修することは出来ません。

問合せ先：教養学部生命環境科学系 八田助教授

（内線46862）

e mail：hatta@idaten.c.u.tokyo.ac.jp

（大学院総合文化研究科・教養学部）

「教養学部報」第459（10月2日）号の発行

教官による、学生のための学内新聞

竹内信夫：駒場図書館、いよいよ開館

開館時間も延長

香山壽夫：光の回廊・知の会堂

新駒場図書館の設計について

小林康夫：樹の秘密

新図書館2階ホールの絵画

稲葉 寿：数理人口学と人口問題

杉橋陽一：ドイツ語教科書『Prismen』紹介

石浦章一：ついに出た！ 学生による授業評価結果

本の棚

三谷 博：斎藤兆史著『英語襲来と日本人 えげれず語事始』

山下晋司：木村秀雄・遠藤泰生『クレオールのかたち

カリブ地域文化研究』

廣野喜幸：金森修・中島秀人『科学論の現在』

時に沿って

大槻知忠：自主ゼミの日々

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、図書館入口、学生課ロビー、生協書籍部、保健センター駒場支所で無料配布しています。バックナンバーもあります。

（大学院総合文化研究科・教養学部）

大学院数理科学研究科公開講座

「数のいろいろ ……定規とコンパスからガロワの理論まで……」

大学院数理科学研究科では、2002年度数学公開講座を次の通り開催いたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

一口に数といっても、自然数、整数、有理数、実数、複素数……といろいろな数があります。古代ギリシャでは、どんな数が定規とコンパスで作図できるかというのが大問題でした。ガロワの理論にもふれながら、いろいろな数の世界へのご案内します。

日 時：平成14年11月16日（土）13：30～17：00

場 所：大学院数理科学研究科棟 大講義室

講演予定：

13：30～14：30 「数のいろいろ」

桂 利行（大学院数理科学研究科教授）

14：45～15：45 「作図できる数、できない数」

志甫 淳（大学院数理科学研究科助教授）

16：00～17：00 「3大作図不可能問題とガロワの理論」

宮岡 洋一（大学院数理科学研究科教授）

連絡先：E mail t_saito@ms.u.tokyo.ac.jp

（大学院数理科学研究科）

データベース定期講習会のお知らせ

情報基盤センター図書館電子化部門では、下記のとおりデータベース定期講習会を実施します。データベースを利用した最新の文献調査方法に関する講習会です。どなたでもお気軽にご参加ください。

[データベース出張講習会]

ご要望に応じた内容で研究室までお伺いします。授業やゼミ等でご活用下さい。

希望の日時、内容等をメールでお知らせ下さい。スケジュールを調整の上、折り返しご連絡します。

申込み先 学術情報リテラシー掛 (22649)
literacy@lib.u.tokyo.ac.jp

[データベース定期講習会]

パソコンを使った実習を中心にしたコースです。ご都合の良い時間帯を選んでどうぞご参加ください。(11:00~12:00、15:00~16:00、18:00~19:00)

参加予約は不要です。時間までに会場に直接お越し下さい。

会場

総合図書館1階メディアプラザ 講習会コーナー

定員 12名(先着順)

各コースの内容

コース名	内 容
入門コース	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で指定された文献や参考文献リストに記載された文献の所在調査のテクニックを習得することを目的とします。 ・OPACなど基本的なデータベースを使った検索実習を中心とします。
実践コース(1) 文献データベース	<ul style="list-style-type: none"> ・研究に必要な文献を調査・収集するテクニックを習得することを目的とします。 ・雑誌記事索引データベースをはじめ、各専門分野の文献データベースの検索実習を中心に、文献調査方法と電子ジャーナルの利用について紹介します。
実践コース(2) 引用索引データベース (Web of Science)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究に必要な文献を調査・収集するテクニックを習得することを目的とします。 ・引用索引データベース (Web of Science) の検索実習を中心に、文献調査方法と電子ジャーナルの利用について紹介します。

スケジュール(11月~12月)

月	火	水	木	金
10/28 11:00 12:00 実践(2)	10/29 15:00 16:00 実践(1)	10/30	10/31 18:00 19:00 実践(2)	11/1
11/4 休日	11/5 15:00 16:00 入門	11/6	11/7	11/8 15:00 16:00 実践(1)
11/11 15:00 16:00 実践(2)	11/12	11/13 18:00 19:00 実践(1)	11/14	11/15
11/18	11/19 18:00 19:00 実践(2)	11/20	11/21	11/22 18:00 19:00 入門
11/25 11:00 12:00 実践(1)	11/26	11/27 11:00 12:00 実践(2)	11/28 休館日	11/29 18:00 19:00 実践(2)
12/2	12/3 15:00 16:00 実践(1)	12/4	12/5 11:00 12:00 入門	12/6
12/9 18:00 19:00 実践(2)	12/10	12/11 11:00 12:00 実践(1)	12/12	12/13 15:00 16:00 実践(2)
12/16	12/17	12/18 15:00 16:00 入門	12/19 15:00 16:00 実践(1)	12/20
12/23 休日	12/24	12/25	12/26 11:00 12:00 実践(2)	12/27 休館日
12/30 休館日	12/31 休館日	1/1 休館日	1/2 休館日	1/3 休館日

<http://www.lib.u.tokyo.ac.jp/dl/koshukai/>

(情報基盤センター)

≡ 事務連絡 ≡

人 事 異 動 (教 官)

発令年月日	氏 名	異動内容 (新官職)	旧 (現) 官職等
14 . 10 . 1	王 守 常	(退 職) 平成14年9月30日限り任期満了により退職した	大学院人文社会系研究科助教授
14 . 9 . 30	市 川 保 子	(辞 職) 辞 職	留学生センター教授
14 . 10 . 5	石 弘 之	"	大学院新領域創成科学研究科教授
	湯 浅 秀 男	(死 亡) 平成14年9月18日死亡	大学院工学系研究科助教授
14 . 10 . 1	王 葆 玆	(採 用) 大学院人文社会系研究科教授	中国社会科学院哲学研究所研究員
"	李 建 民	大学院人文社会系研究科助教授	中国 (台湾) 中央研究院歴史語言研究所副研究員
"	村 松 眞理子	大学院総合文化研究科助教授	
"	山 口 周	(昇 任) 大学院工学系研究科教授	名古屋工業大学工学部助教授
"	久保田 俊一郎	大学院総合文化研究科教授	大学院医学系研究科助教授
"	井 坂 理 穂	大学院総合文化研究科助教授	大学院総合文化研究科講師
"	田 原 史 起	"	"
"	福 島 孝 治	"	物性研究所附属物質設計評価施設助手
"	黒 田 明 伸	東洋文化研究所教授	東洋文化研究所助教授
"	高 橋 昭 雄	"	"
"	青 柳 正 規	(配 置 換) 大学院人文社会系研究科附属文化交流研究施設教授	大学院人文社会系研究科教授
"	内 田 慎 一	大学院理学系研究科教授	大学院新領域創成科学研究科教授
"	澤 田 康 幸	大学院経済学研究科助教授	大学院総合文化研究科助教授
"	堀 洋 一	生産技術研究所教授	大学院工学系研究科教授
"	八 木 久 義	(転 出) 三重大学生物資源学部教授	大学院農学生命科学研究科教授
"	佐々木 淳	横浜国立大学大学院工学研究院助教授	大学院新領域創成科学研究科助教授
"	Alam, Djumali	山口大学人文学部助教授	社会科学研究所附属日本社会研究情報センター助教授
"	戸 塚 洋 二	高工エネルギー加速器研究機構教授	宇宙線研究所附属神岡宇宙素粒子研究施設教授
"	米 澤 徹	(転 任) 大学院理学系研究科助教授	名古屋大学大学院工学研究科助教授
"	岩 田 一 政	大学院総合文化研究科教授	内閣府事務官指定職 (政策統括官 (経済財政 - 景気判断・政策分析担当))
"	齋 藤 希 史	大学院総合文化研究科助教授	国文学研究資料館文献資料部助教授
"	廣 田 和 馬	物性研究所附属中性子散乱研究施設助教授	東北大学大学院理学研究科助教授
"	堀 洋 一	(併任解除) 工学部電気工学科長	大学院工学系研究科教授
"	和 田 一 夫	経済学部経営学科長	大学院経済学研究科教授
"	戸 塚 洋 二	宇宙線研究所附属神岡宇宙素粒子研究施設長	宇宙線研究所附属神岡宇宙素粒子研究施設教授

発令年月日	氏名	異動内容(新官職)	旧(現)官職等
14.10.1	日高 邦彦	(併任) 工学部電気工学科長	大学院工学系研究科教授
"	小松 美彦	大学院人文社会系研究科教授	東京水産大学水産学部教授
"	岡村 直道	大学院理学系研究科教授	筑波大学基礎医学系教授
"	佐口 和郎	経済学部経営学科長	大学院経済学研究科教授
"	鈴木 洋一郎	宇宙線研究所附属神岡宇宙素粒子研究施設 長	宇宙線研究所附属神岡宇宙素粒子研究施設 教授
"	戸塚 洋二	宇宙線研究所附属神岡宇宙素粒子研究施設 教授	高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核 研究所教授
"	金光 義彦	物性研究所教授	奈良先端科学技術大学院大学物質創成科学 研究科教授
"	町田 一成	"	岡山大学大学院自然科学研究科教授
"	梅原 出	物性研究所助教授	横浜国立大学大学院工学研究院助教授
"	坂井 徹	"	東北大学大学院理学系研究科助教授
"	福井 一俊	"	福井大学遠赤外領域開発研究センター助 教授

人事異動(事務官)

発令年月日	氏名	異動内容(新官職)	旧(現)官職等
14.10.1	内田 正一	経理部経理課長	宇都宮大学経理部経理課長
"	今泉 光史	経理部契約課課長補佐(特定調達担当)	独立行政法人国立特殊教育総合研究所総務 部会計課課長補佐
"	村上 武	施設部機械設備課課長補佐	独立行政法人国立オリンピック記念青少年 総合センター総務部会計課専門職員
"	貝田 綾子	経理部経理課(出納主任)	経理部経理課出納第一掛長
"	藤井 繁幸	総務部人事課専門職員(職員相談担当)	(日本学術振興会国際事業部人物交流課外 国人特別研究員第一係長)
"	高田 範夫	総務部情報企画課専門職員(ネットワーク 担当)	総務部情報企画課専門職員
"	石掛 五男	総務部情報企画課専門職員	東京水産大学会計課情報処理係長
"	飯田 信之	経理部経理課出納第一掛長	独立行政法人大学入試センター管理部会計 課用度係長
"	矢作 直之	経理部契約課契約掛長	施設部企画課工事契約掛長
"	小檜山 克則	経理部契約課特定調達第一掛長	経理部契約課契約掛長
"	片桐 徹	施設部企画課工事契約掛長	宇宙科学研究所管理部契約課契約第二係長
"	吉田 左貴子	附属図書館情報管理課目録情報掛長	医学部・医学系研究科情報サービス掛長
"	山口 香織	法学部・法学政治学研究科図書閲覧掛長	附属図書館情報管理課目録情報掛長
"	榎田 正吾	医学部・医学系研究科情報サービス掛長	教養学部等図書課受入掛長
"	荒井 智典	農学系学術国際課国際交流掛長	研究協力部国際交流課専門職員
"	小山 修美	教養学部等図書課受入掛長	教養学部等図書課閲覧掛長
"	池田 淑子	教養学部等図書課閲覧掛長	法学部・法学政治学研究科図書閲覧掛長
"	大塚 正己	社会科学研究所会計掛長	独立行政法人国立オリンピック記念青少年 総合センター総務部会計課経理係長
"	煙山 和範	和歌山工業高等専門学校事務部長	経理部経理課長
"	二宮 徹平	宮城工業高等専門学校学生課長	総務部人事課専門職員(職員相談担当)
"	内藤 実	高エネルギー加速器研究機構施設部設備課 長	施設部機械設備課課長補佐

発令年月日	氏 名	異動内容（新官職）	旧（現）官職等
14 . 10 . 1	有 森 健 晴	独立行政法人国立特殊教育総合研究所総務部会計課課長補佐	経理部契約課専門職員（特定調達担当） 経理部契約課特定調達第一掛長（併任）
"	武 井 和 夫	（日本育英会企画広報部企画課課長補佐）	経理部経理課（出納主任）
"	鈴 木 昇	（日本育英会情報処理部システム開発課課長補佐）	総務部情報企画課専門職員（ネットワーク担当）
"	岡 本 勝 壽	（日本育英会奨学部総務課課長補佐）	生産技術研究所総務課専門職員（国際交流担当）
"	井ノ口 秀 樹	宇宙科学研究所管理部庶務課企画・広報係長	医学部附属病院総務課文書法規掛主任
"	大 浦 輝 一	独立行政法人大学入試センター管理部会計課用度係長	工学系研究科等経理課給与掛主任
"	野 呂 清 隆	独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター基金部管理課管理係長	経理部主計課監査第一掛主任
"	福 田 章	（日本学術振興会国際事業部人物交流課外国人特別研究員第一係長）	情報基盤センター総務掛主任
14 . 9 . 30	青 木 良 子	辞職	社会科学研究所会計掛長

（備 考）

平成14年10月1日付けで、農学系学術国際課専門職員 高橋 忠、農学系学術国際課国際交流掛長の併任を解除する。

≡ 訃報 ≡

ジャン＝クリストフ・ドゥヴァンク 外国人教師

本学外国人教師ジャン＝クリストフ・ドゥヴァンク先生は、夏期休暇でフランスに御帰国中の8月19日、交通事故に遭われて亡くなりました。競技用自転車を用いた愛された先生は、パリから保養先に自転車で向かわれる途中、フォンテーヌブロー近傍の国道7号線上で生じた自動車の追突事故に巻き込まれ、お命を失われたのでした。享年45歳でした。



先生はフランスの名門エコール・ノルマル・シュペリユール（高等師範学校）の御出身で、ギリシア・ラテン古典文学を専攻され、難関をもって知られるアグレガシオン（大学教授資格試験）に合格の後、昭和58年、外国人教師として慶應義塾大学に招聘されて来日。その後、昭和63年に東京大学教養学部にお移りになり、さらに平成3年には文学部に転じられ、以後フランス語フランス文学専修課程において学部・大学院の授業を御担当になりました。先生は現代哲学の方面にも研究を拡げられ、平成6年にはパリ第10大学に博士論文『現象の論理

フッサール『論理学』研究』を提出されて学位をお取りになっています。先生の学識は日本において広く知られ、日本フランス語フランス文学会の他にも日仏哲学会などの関係者から大きな信頼を寄せられていました。また、フランス大使館からは給費留学生試験や在外バカロレア試験の試験責任者をたびたび委嘱されていました。

先生はフランス文学全般にわたって、幅広く奥行き深い知識をお持ちでした。先生の語り口は緻密で論理的な上にシニカルなエスプリにも富み、まさにフランスの伝統的な知性を体現する授業でした。文学作品の朗読ひとつを取ってみても、発声の強弱や微妙な抑揚のニュアンスに、テキストに対する先生の鋭い解釈と愛着とがにじみ出し、学生にも同僚にもまことに深い感銘を与えたものでした。先生は、フランス文学の最上の精髓を日本に伝え得た数少ない外国人教師の一人であり、とりわけその教育の成果は顕著で、フランスに留学して博士論文を提出する学生が近年とみにその数を増加させつつあっただけに、なおさら先生の不慮の死が惜しまれます。在りし日の先生をしのび、謹んで御冥福をお祈りします。

（大学院人文社会系研究科・文学部）

『あなたのゴミは
みんなのゴミです』



研究者の市場

我が国のあらゆるシステム、制度、慣習が問い直される中で、大学もまた大きな変革を求められている。重要な論点のひとつは「人材の流動による組織の活性化」である。科学技術基本計画、産学官連携プロジェクト、国立大学法人化調査検討会議など、あるゆるところで繰り返し「研究者の流動性向上が必要」と指摘されている。にもかかわらず、現実には研究者の流動化は起きていない。理由は二つある。

一つは、退職金、年金制度、信用保証など、終身雇用を前提とした社会システムが依然として存在するからだ。銀行ローンや各種メンバーズカードの申込書には勤務先在職年数の記入欄がある。文科科学省共済組合の退職予定者への住宅貸し付けも組合員資格取得後20年以上であることが必要条件だ。流動すると不利になる社会では、流動性が向上するはずはない。



もう一つは、競争原理に基づき職務と雇用条件を明示した契約によって研究者を獲得する「研究者の市場」が我が国に存在しないからだ。「研究は人」であり、どの研究機関も優れた研究者の獲得に鎬を削るはずである。

しかし、国立大学教員の給与は終身雇用を前提とした年功序列の俸給表で定められるため、競争原理が働かない。米国のように他研究機関への移動によってキャリアを形成するシステムになっていない。研究者にとって給与がすべてではないが、横並びの安定した環境から

らはインセンティブが生まれず、流動性が向上するはずはない。

法人化は東京大学にとって大きなチャンスである。世界トップ水準の学術研究と高度専門職人材養成を自らのミッションとして世界と競争するためには、世界のトップ大学や研究機関に対して十分な競争力を有する人事・評価制度を構築し、グローバルな「研究者市場」に参入する必要がある。

南谷 崇（先端科学技術研究センター）

（淡青評論は、学内の職員の方々にお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

広報室からのお知らせ

平成14年度「学内広報」の発行日及び原稿締切日を、東京大学のホームページに掲載しました。

URL : <http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/soumu/soumu/kouhou.htm>

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務課広報室を通じて行ってください。

1247

2002年10月9日

東京大学広報委員会

〒113 8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学総務課広報室 ☎ (3811) 3393

e-mail kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jpホームページ http://www.u-tokyo.ac.jp/index_j.html